

医療問題から目を離さないで ～桜井充議員のセミナー報告～

現在報じられている医療の諸問題は、生活者の希望を奪うものばかり。将来不安の大きな要素となっており、日頃からマネープランだけでは解消不可能と感じています。

このほど、フリーライターの内藤真弓が「日本の医療を守る市民の会」を立ち上げ、第 1 回目の勉強会が開催されました。講師は参議院議員で現役の医師でもある桜井充氏。すべてはレポートできませんが、そのエッセンスだけでもお伝えしたいと思います。

● 世界一の日本の医療

医療費負担についてはネガティブな情報ばかりが目立ちますが、日本の医療費負担は世界の最低レベルとのこと。下表を見ても、GDP に対する総医療費の割合は、1 位のアメリカの半分程度です。

また、WHO の総合健康達成度評価 (The World Health Report 2000) によると、日本は堂々の 1 位。日本の医療のコスト、クオリティ、アクセスが総合的に評価されているわけです。たとえば、乳幼児死亡率は戦後 1000 人に対し 50 人と多かったのが、現在では 2.6 人。15 位のアメリカは、現在でも 6.8 人だそうです。

まずは国民一人一人が、日本の医療は世界に誇れる水準だということに自覚するべきでしょう。批判すべきことには声を上げなければなりません。実情を知らずにネガティブにとらえ過ぎると、良いものも悪く

なります。

何といても、公的医療保険制度による恩恵は大きなものです。とりわけ高額療養費制度があるおかげで、自己負担額がかなり抑えられる点は評価すべき。しかし、生命保険文化センターが行う『平成 19 年度 生活保障に関する調査』を見ても、高額療養費の還付を知っている割合は 43.8% と、半数にも満たない状態。情報が隅々にまで行き渡るよう運営側ももっと努力し、国民皆保険となっている日本の制度をみんなで守るという機運を高めていくべきでしょう。

● 財政再建はできる？

小泉政権以降、公より民間が運営するほうが効率的という論調が続いてきました。しかし、必ずしもそうとはいえないようです。アメリカの医療保険制度で見ると、民間保険はメディカルロス (集めた保険料から給付に回った分) を差し引いて運営に回った分が 100 のうち 25 くらいで、公的保険のメディケア (高齢者・障害者対象) やメディケイド (低所得者対象) は 2 くらいとのこと。明らかに、民間のほうが非効率な運営を行っています。

日本でも、公的医療保険制度だけに頼ってはいけないかのようなムードが醸成されつつあります。その背景には、第三分野自由化を迫り、破綻生保の買収で日本でのビジネスチャンスを外資系生保に広げた、アメリカの政策が見え隠れしているようです。生活者は簡単に乗せられないよう、目を開いていないといけま

せん。

桜井氏の提言によると、医療保険を含めた社会保障制度の財政再建は、公共事業に回っている国庫支出を振り替えればできるとのこと。GDP に対する公共事業の割合は、先進国のなかでも日本は突出しており、アメリカが 1.9% なのに 6% もあります。国土の広さを比較すれば数字以上の開きがあるでしょう。現在、土木で生計を立てている人を医療・介護分野へシフトさせていく…、簡単ではないでしょうが、便利さを求めている道路と命にかかわる医療のどちらを選択するか、国民ひとりひとりが問われています。

● 患者側の問題

昨今、医師の不足も深刻になっています。比較的マシな東京都でも、常勤医師が充足している医療施設の割合は 45.8% (全国平均は 35.5%)、非常勤医師を常勤換算しても 93.6% (同 83.5%) です。医師数自体は増えているのですが、高齢者が増えて患者が増加したこと、医学の進歩により検査項目が増え、手術の種類も広がったことが医師不足の原因となっているそうです。

全体の医師数が増えているとはいえ、産婦人科医はデータ的にも減少しています。拘束時間が多くなりがちで、訴訟問題にもつながりやすいため、医学生にも敬遠されています。

近年、患者の権利が重んじられるようになり、圧倒的に弱い立場だった患者が声を上げるようになってきました。自分の命を納得できるかたちで守れる土壌ができてきたのはいいことですが、一方で理不尽な要求を当然の権利のようにつきつけるモンスター患者も出現しています。行き過ぎた要求は、クレーム予防のための過剰検査などにつながり、医療問題の負のスパイラル化を招くでしょう。

人の行うことには限界があります。命にも限界があります。医療問題についてひとりひとりが考えるべきことは、たくさんありそうです。

(クルー 浅田里花)

OECD 加盟国の医療費の状況 2005 年 (OECD 「HEALTH DATA 2007」より)

| 国名 | 総医療費の対 GDP 比 (%) | 一人当たり医療費 (ドル) |
|------|------------------|---------------|
| アメリカ | 15.3 1位 | 6401 1位 |
| フランス | 11.1 3位 | 3374 8位 |
| ドイツ | 10.7 4位 | 3287 10位 |
| カナダ | 9.8 9位 | 3326 9位 |
| イタリア | 8.9 17位 | 2532 18位 |
| イギリス | 8.3 18位 | 2724 17位 |
| スペイン | 8.2 20位 | 2255 22位 |
| 日本 | 8.0 22位 | 2358 19位 |